

東京の里山、保育園が新たな再生取り組み

一遊ぶ子ども達がかぎ？

社会福祉法人東保育会（ひがしほいくかい）は、2022年6月 管理する実際の里山“ゆうしの里山”（遊子の里山）を用いた環境教育活動を本格的に始動させます。



これまで私たち東保育会は、自然教育と見守る保育を主軸に保育園や学童クラブを運営してまいりましたが、さらなる保育充実を図るため、2020年5月、京王稲城駅より徒歩10分（稲城から新宿までは30分）の東京で最も駅に近い里山（現・ゆうしの里山）を取得しました。

全国的に放置された里山が問題となっていますが、同じくこの土地も当初は手入れが行き届かず荒れ放題でした。取得後は法人に所属する各園の保育士たちや地元のボランティアを中心に再開拓を続け、徐々に”里山”の顔つきを取り戻してきています。進捗は山全体の50%ほどのエリアですが、間伐や畑の整備により地面にこもれ日が差し、眠っていた草花が既に顔をのぞかせています。

フィンランドの研究グループが2020年10月に論文で明らかにしたように、本物の森に近い土壌を園庭に取り入れると子どもたちの免疫強化にも影響を与えるようです。（ただ単に木を植えるだけでは効果は少ないとのこと。）やってきたこと、これから取り組んでいく道筋に間違いはないのだと再認識しました。

[参照論文⇒<https://www.science.org/doi/10.1126/sciadv.aba2578>]

これまでも土や昆虫をはじめとする「生物多様」が子どもたちの日常に溶け込むことができるよう取り組んでまいりましたが、“ゆうしの里山”を活用することによりさらに子どもたちと自然の繋がりが強くなるよう期待しています。実際、よく”ゆうしの里山”を利用するクラスでは、既に子どもたちの運動能力にも目に見える効果（転ぶ頻度が減る等）も表れてきています。今回の本格始動で、より多くの子どもたちに益がいきわたるようになるでしょう。

奥山を持たず、小さな森である稲城の里山は、人が適度に世話し活用してくれなければ生態系を維持することができません。『子どもたちのため』という付加価値ができた今、里山にとって持続的なサイクルの始まりに違いありません。オオタカもフクロウもいなくなってしばらくたつそうですが、いつの日か“ゆうしの里山”にも彼らが戻ってきてくれることも願い活動し続けてまいります。里山復活のカギを握るのは、もしかしたら無邪気に自然と戯れる子どもたちかもしれません。

問合わせ先

TEL 042-378-6500(タケダ)

Mail gakudou@hongouyuushi.ed.jp

※6月上旬に地域お披露目会を開催予定です。

詳しくはお問い合わせください。

法人名 社会福祉法人東保育会

法人住所 〒206-0812 東京都稲城市矢野口2065

代表者 富岡孝幸

里山名称 ゆうしの里山

里山住所 東京都稲城市百村